

仙台での1年間の四季雑感

One year in Sendai



山本博巳*

私が2024年4月に仙台に越してきてから1年が経過しました。私が仙台に来る前に、仙台から東京への単身赴任していた友人から、「仙台は夏は涼しく、冬は暖かく、雪は降らず、最高の場所です」と聞いておりました。1年が経過して、なるほどと思うところです。1年間の雑感を記してみます。

私は高知県出身で、過去40年間は、南関東（東京、神奈川、千葉）で居住・勤務してきました。遠い昔ですが、私は約30年前に、オーストリア・ウィーン近郊の国際応用システム分析研究所（IIASA）で1年間勤務したことがあり、それ以来の北国での居住・勤務になりました。

本稿執筆のために確認すると、ウィーンの1月平均の最高気温3℃、最低気温-3℃に対して、仙台の1月平均の最高気温6℃、最低気温-1℃でした。ウィーンよりも仙台の冬はマイルドでした。参考までに、東京の1月平均の最高気温10℃、最低気温1℃です。

なお、勤務地である東北大学青葉山キャンパスは、標高約150メートルの青葉山の丘陵地帯に位置しているため、仙台駅前に比べて、1～2℃気温が低くなります。冬季の、1～2℃の気温差のため、仙台駅前では雨でも、青葉山では雪という場合が少なくありません。それでも、奥羽山脈の向こう側の山形県で大雪のときでも、こちらでは奥羽山脈を越えた一部の雪雲がやってくるだけで、降雪は数センチメートル程度なので、過ごしやすいと感じます。

4月になると春の桜の時期になります。2025年の仙台の桜の満開は4月10日、青葉山の桜の満開は、私の目視で、4月15日でした。ちなみに東京の桜の満開は3月30日です。仙台の春には、雪を含めた冬から解放される喜びを感じました。

夏には、南関東で毎日のように体験する猛烈な熱波は、仙台では発生しないわけではないのですが、毎日発生しません。私の感覚では、夏には南関東では頭を使う作業の能率は大幅に低下しますが、仙台では小幅に低下するくらいで済みます。調べてみると、仙台の8月平均の最高気温28℃、最低気温22℃、東京の8月平均の最高気温31℃、最低気温

24℃なので、最高気温で約3℃、最適気温で約2℃違っており、データからも納得です。問題なのは、夏にも東京への出張などが多いことです。東京へ出張すると、「慣れない」暑さにやられます。夏には仙台での会議が増えるとよいですね。

仙台の秋は芋煮会の印象が強く残ります。講座（研究室）でも芋煮会を行いました。昨秋は、仙台出身の学生の指導の下で、2つの鍋で、仙台風の豚肉みそ味の芋煮と山形風の牛肉しょうゆ味の2種類の芋煮が出来上がりました。芋煮会が終わると、冬はもうすぐです。

仙台の冬はやはり南関東よりも厳しいので、仙台の冬にはエネルギーの重要性をより強く感じます。私の仙台のアパートのエネルギー供給は、冷暖房は電気のエアコン、調理は電気の内IHコンロ、給湯はLPガスボイラです。東北電力の電源構成の約20%が再生可能エネルギーを含み、エアコン暖房が環境に存在する熱である大気熱も活用して熱供給をしていることを考慮しても、化石燃料が主体のエネルギーを使っています。仙台の冬には、LPガス給湯など、化石エネルギー給湯に救われる思いがします。ただし、長期的には、化石エネルギー給湯を非化石エネルギー給湯へ転換するなど、家庭で使用する化石エネルギーを非化石エネルギーへ転換していく必要があります。

私の所属する先端電力工学共同講座の全体の研究テーマは、一次エネルギーから、エネルギー転換、配送、エネルギー利用、エネルギーサービスに至るエネルギーチェーン全体の低炭素化です。個別研究テーマとして、東北地方の自治体のエネルギー供給の低炭素化や、100%再生可能エネルギーからのエネルギー供給のコスト最小化などの研究を行っています。家庭で利用するエネルギーの脱炭素化を含めて、皆様と研究発表会などで意見交換できれば嬉しく思います。

* 東北大学大学院工学研究科電気エネルギーシステム専攻先端電力共同研究講座客員教授 日本太陽エネルギー学会理事